

共に育ち 共に学ぶ

交流及び共同学習

居住地校交流ガイドブック第2版



相互に人格と個性を尊重し合える
共生社会実現のために

共同製作

能代市教育委員会 藤里町教育委員会

三種町教育委員会 八峰町教育委員会

秋田県立能代支援学校

平成31年3月



「 どの子ども輝く共生社会を目指して 」

能代市教育委員会 教育長 高橋 誠也

居住地校交流をしている時の子どもたちの表情は、目がきらきらしていて実に良い表情をしています。この交流は、両校の子どもたちの笑顔や優しさ、いたわりや配慮にあふれており、見ているこちらまで心が和みます。子どもたちは一緒に活動することで、共に生きることの意義や価値を見出したり、自分を見つめ直し今後の生き方を考えたりするなど、実に豊かな学びが実現されております。子どもの心を耕し、よりよい成長を促すきっかけになっていることは間違いありません。

今後も共にふれあい、同じ空間で同じ空気を吸いながら活動することで、互いを肌で感じ、理解し合い、支え合って生きていくことの大切さを学び続けることができるよう、我々教育者が、交流及び共同学習の意義を共有しながら、その機会を子どもたちに提供していくことが大切だと思っております。すべての子どもたちが輝く共生社会に、幸せな未来につながるよう願っております。



「 お互いの心の成長のために 」

藤里町教育委員会 教育長 浅利 美津子

以前、「しのめ夏祭り」を拝見した際、藤里町から支援学校に送り出した子どもたちの成長ぶりには、本当に驚かされました。みんなと一緒に歌を歌い、みんなと一緒に劇をし、すっかり仲間に溶け込んでいる成長した姿を拝見し、感動のあまり、こみ上げてくるものを感じました。子どもたちを、このように立派にご指導くださった先生方に、感謝と敬意を申し上げます。

藤里小学校では、平成26年・27年に、小学校に於いて能代支援学校との居住地校交流が行われました。交流を通して、お互いを理解し、共に支え合い、共に学び合いながら、豊かな人間性が育まれてきたと感じております。

これからも、児童生徒にとって、お互いの心の成長のためにも、居住地交流及び共同学習の推進に大きな期待をしているところでございます。

なにとぞ、ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。



「 継続した交流及び共同学習を 」

三種町教育委員会 教育長 鎌田 義人

10年ほど前、私が中学校現場にいたところ、能代養護学校との交流が行われていました。小学校で一緒であった友だちと、共に活動できる喜びの機会をととても楽しみにしている双方の生徒達でした。

身構えて始めるのではなく、無理のない内容での「交流及び共同学習」からスタートしたことが良かったような感じがしたのですが。

平成29年度は三種町内の小学校2校で5回の交流が行われました。お互いを正しく理解し、共に助け合い、支え合っていくことの大切さを学ぶ良い機会となったと思います。

今年度も小学校2校で6回の交流が行われました。双方の児童生徒が活動を共にする機会を今後も継続し、積極的に推進していくことが大切だと思います。



「 学校間交流・居住地校交流を充実するために 」

八峰町教育委員会 教育長 川尻 茂樹

障害のある子どもたちと障害のない子どもたちが交流することは、一つの社会を構成する一員となる子どもたちを育成する上で大変意義のあることだと思います。しかし、障害について理解していない状態で交流するのでは、成果を得どころか、互いに不愉快な思いだけが残ってしまうこともあります。そのため、このガイドブックを活用し、事前にしっかり学習した上で交流することが大事だと思います。

ある障害をもつ子どもが保育園に転入したとき先生が「この子が来たおかげで、他の子どもたちの優しさが育つ」と話していたことを思い出します。また、昨年八森小で実施された交流学習を見ましたが、仲間に入ろうと頑張る支援学校の子どもと気を配りながら仲間として受け入れようとする八森小の子どもたちがとてもいい関係を作っていました。

今後も、学校間交流・居住地校交流で双方の学校の子子どもたちが心豊かに成長することを期待します。

能代市教育委員会
藤里町教育委員会
三種町教育委員会
八峰町教育委員会
秋田県立能代支援学校

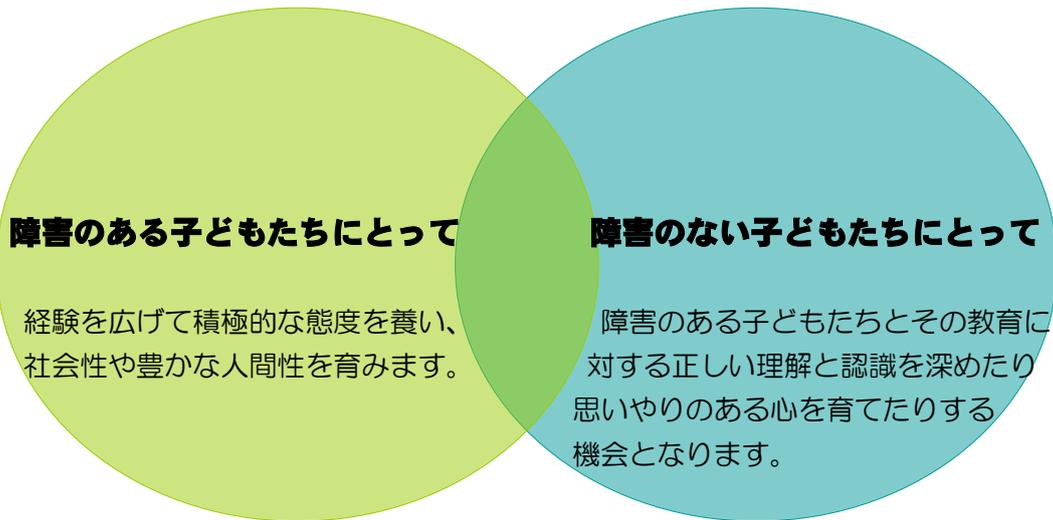
居住地校交流について、希望する全員の実施を目指します

- ・相互の触れ合いを通じて豊かな人間性を育むことを目的とする交流の側面と、教科等のねらいの達成を目的とする共同学習の側面があり、二つの側面を一体として進めていきます。
- ・双方の児童生徒の実態を共通理解し、安全面での十分な配慮を行いながら進めていきます。
- ・事前、事後学習の中で、双方の児童生徒の理解を深め、継続した交流及び共同学習を実施します。
- ・交流及び共同学習が双方の学校の指導計画に基づいて行われ、かつ学校全体の支援の基に、継続的に行われるように、学習内容についての話し合いを十分行っていきます。
- ・交流及び共同学習には様々な形態があります。居住地校における交流及び共同学習もその一つですが、その他に、学校間における交流及び共同学習、地域の人々との交流及び共同学習、小・中学校における通常学級と特別支援学級との交流及び共同学習などがあります。

目 次

1 共生社会を目指して	1
2 障害のことを適切に理解していくために	2
3 居住地校交流の進め方	3
4 出前授業の実際	4
5 交流及び共同学習の実際	5
6 子どもたちの素朴な疑問から	7
7 交流を進めていくと、こんなことも	8

共に育ち、共に学ぶ



共に、多様な学びを

平成24年7月、中央教育審議会初等中等教育分科会より「共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進（報告）」が取りまとめられました。

私たちが目指す「相互に人格と個性を尊重し合える共生社会」を実現するためには、障害のある人と障害のない人が互いに理解し合うこと、障害のある子どもたちと障害のない子どもたち、及び地域社会の人たちが、触れ合い、共に活動することが大切です。

そのための一つの方法として、交流及び共同学習に取り組んでいます。

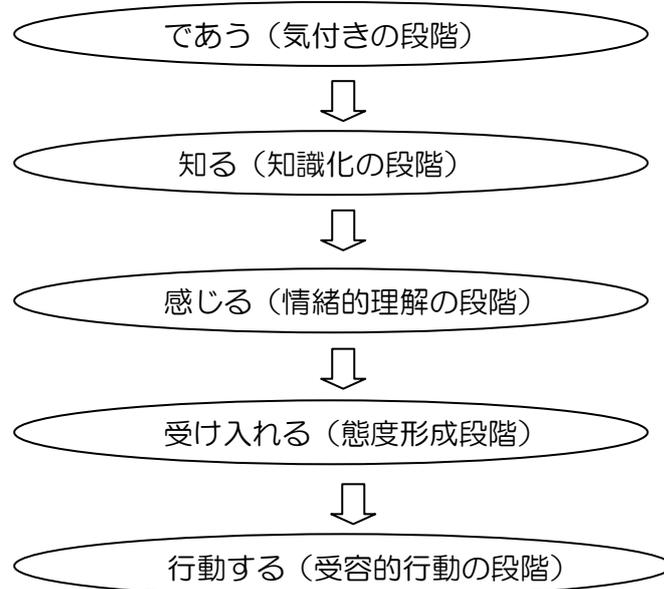
交流及び共同学習は、同じ社会に生きる人間として、互いを正しく理解し、共に助け合い、支え合って生きていくことの大切さを学ぶ場でもあります。一人の人間としてお互いを受け入れ、理解し、地域に生きる仲間として互いに意識し共に生活するために、「理解啓発」と「よりよい実践の積み重ね」を大切にしていきます。

この取組を通して、特別支援学校の子どもたちにとって、自分が住んでいる地域で人間関係を広げ、豊かに暮らしていくために地域の同年代の子どもたちと活動を共にし、交流を深めていくことが大変重要になります。小・中学校等の子どもたちにとっては、地域の仲間として特別支援学校の子どもたちと関わりながら障害に対する理解を深めていくことができます。

小・中学校段階から共に学び、共に生きていくことで、障害のある人をより自然に受け入れ、共に活動し生きていくことができると考えます。私たちの目指すのは、障害のある人もない人も、共に生きていく共生社会です。

2 障害のことを適切に理解していくために

～「障害理解の発達段階」に応じて進めていきます～



「障害理解の発達段階」

1 気づきの段階

障害のある人がこの世の中に存在していることを気付く段階。この段階は、障害や障害児・者に対する親しみ向上の第1期として位置付けています。

2 知識化の段階

差異がもつ意味を知る段階。そのためには自分の身体の機能を知り、また障害の原因、症状、障害者の生活、障害者への接し方、エチケットなどの広範囲の知識を得る必要があり、この段階で学びます。

3 情緒的理解の段階

障害者の機能面での障害や社会的な痛みを「こころで感じる段階」。ここでは、哀れみや同情、罪悪感、不安などのネガティブな感情も含まれます。このような感情を持ちながら、いろいろな体験を通して障害児・者をより身近に感じられるように、また受け入れるように促して教育していきます。

4 態度形成段階

十分な第2段階の学習と第3段階の体験を得た結果、適切な認識（体験的裏付けをもった知識、障害観）が形成され障害者に対する適正な態度ができる段階と捉え進めていきます。

5 受容的行動の段階

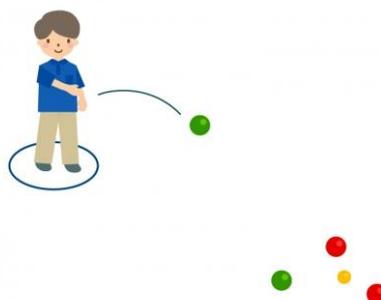
生活場面での受容、援助行動の発言の段階。すなわち自分たちの生活する社会的集団（学校、クラブ、会社、地域、趣味のグループなど）に障害者が参加することを当然のように受け入れ、また障害者に対する援助行動が自発的に現れる段階と捉えます。

3 居住地校交流の進め方

交流の内容	小・中学校の動き	特別支援学校の動き
		① 保護者からの希望の確認 ② 教頭から、交流校に依頼
③ 今後の進め方を検討（両校特別支援教育コーディネーター、担任） ・ねらい、内容、日にち ・対象児童・生徒の説明 ・出前授業（必要に応じて）		
		④ 実施計画を作成、交流校に依頼
⑤ 出前授業（特別支援学校コーディネーター、担任） ※ビデオレターによる交流を含む		
	⑥ 事前学習	⑥ 事前学習
⑦ 居住地校交流		
	⑧ 事後学習	⑧ 事後学習
⑨ ビデオ、手紙（お礼状）での交流		
	⑩ アンケートの実施	⑩ 交流校（職員）へのアンケートの依頼、まとめ
⑪ 次年度の計画検討 （両校特別支援教育コーディネーター、担任）		



友だちに紙を支えてもらいながら、完成を目指します



ポッチャは、競技の前に隣の人と握手をします

4 出前授業の実際（小学校の例）

～児童の年齢、交流学习の段階などに応じて、

出前授業の内容を変えて行っていきます～

※事例 1（低学年の場合）

学習活動	指導のねらい
<ul style="list-style-type: none"> ・「ちびまるこちゃんが、けがをしました。」の話を聞く。 ・「ぴびぴ王国」を体験する。 *ぴびぴ王国～「ぴびぴ」のみを使って絵カードの内容（食べ物、学習道具など）を友達に伝えるゲーム ・「なかよしポイント」を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・けがをしたちびまる子ちゃんに対する感情を意識する。（かわいそう、助けたいなど） ・言葉以外の伝達手段を使って、友達に自分の意思を伝える経験をする。 ・障害のある友達への関わり方を学ぶ。 ・交流する相手との関わり方を学ぶ。

※事例 2（高学年の場合）

学習活動	指導のねらい
<ul style="list-style-type: none"> ・「校長先生が、けがをしました。」の話を聞く。 ・「魔法の指」を体験する。 ・「障害がある」ことについて考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・けがをした校長先生に対する感情を意識する。（単に「お世話する」だけでなく、「必要としている支援」を考え実行できるようにする） ・ボディタッチを通して、相手を意識することを体験しながら、人との関わりについて考える。 ・いろいろな人がいること、一人一人みんな違うことやみんな大切な存在であることを意識できるようにする。

※事例 3（交流を重ね、交流した個人の理解をすすめたい場合）

学習活動	指導のねらい
<ul style="list-style-type: none"> ・「〇〇さん劇場」を見る。 (シーン1) ～「ブイッ」とそっぽを向く (原因) 恥ずかしいんだね。 (対応) 自分から近付いてきたら仲間に入れてね。 (シーン2) ～やりたいけど、素直にみんなの中に入れてない (原因) やりたいのに、逃げちゃうんだね。 (対応) 待っていれば、来てくれるよ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・障害児がなぜそのような行動をするのか、その意味を知る。 ・どう対応すればよいかを考え、実際に行動する。 <div style="text-align: right; margin-top: 20px;">  </div>

【出前授業を受けての児童の感想から・・・】

- ・ぴびぴ王国で伝わってよかったです。いつもは、スーパーで見かけても何も話さなかった今日の授業で分かったので、今度会ったら勇気を出して話し掛けたいと思います。
- ・保育園の時にじめていたけれど、理由が分かったので、今度の交流の時は仲良くしたいです。
- ・なぜだか分からないけど、「魔法の手」で温かい気持ちになりました。こんな気持ちで、人と付き合いたいと思いました。

5 交流及び共同学習の実際

～たくさんの学校で、いろいろな学習に取り組んでいます～

【小学部】

◎教科学習

- ・ 図画工作科（粘土マグネットを作ろう、長い紙を作って楽しもう等）・ 外国語活動（自己紹介・ビンゴ等）



児童の大好きな粘土を教材に、様々な色の粘土を使って、マグネットを作り、紹介しました。



はさみや手で切った新聞紙や広告を部屋中に張ったロープにつり下げ、友達と一緒に迷路を作りました。



手を挙げて笑顔で“ハロー！！”たくさんの友達と英語であいさつを交わしました。

- ・ 体育科（ボールで遊ぼう、なわとび等）

- ・ 生活科（秋の宝物ランド等）



本校児童の好きなボールを使って、ボールおくりや的当てなどの活動に参加しました。



本校児童の得意な、なわとびの授業に参加しました。友達と手をつないで大なわとびにもチャレンジしました。



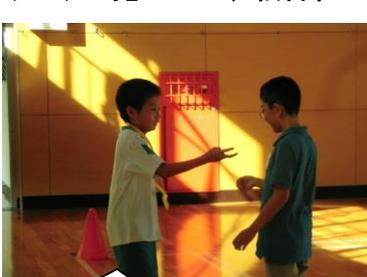
木の実を使ってお店屋さんオープン！近隣の幼稚園、保育園の年長さんを招待しました。本校児童も学校や家で木の実集めをして合流。

◎特別活動

- ・ レクリエーション（スライム作り、ジャンケン鬼ごっこ、絵合わせゲーム等）



作る活動が大好きな6年生は、スライムの作り方を学んできて低学年の先生方に教えてくれました。



本校児童の大好きな走る活動を取り入れ、ジャンケン鬼ごっこをみんなと一緒に楽しみました。



みんなで力を合わせて妖怪ウォッチのキャラクターの絵合わせをするぞ！ヨーイドン！！

・行事への参加（親子クッキング教室、小1・2年バス遠足、天空の不夜城）



収穫したさつまいもを使ってスイーツポテトを作りました。得意な水洗いの仕事を引き受け、洗いの友達と見事なコンビネーション！



素波里方面へのバス遠足に参加。牧場を見たり、遊具で遊んだり…。一日という長時間の交流でしたがあっという間でした。



田楽作りから参加。みんなと活動に参加できたことだけでなく、地域の祭を初めて知るといふ学びもありました。

【中学部】

◎教科学習

・保健体育科



「体ほぐしの運動」と、パラリンピックの正式種目となっている「ボッチャ」をやりました。作戦を相談したり、やり方を教え合ったりして、一緒に上達を目指しました。

・美術科



スクラッチや吹き流しなどの表現技法について学びました。グループの仲間と一緒にいろいろな技法に挑戦したり作品を見合ったりしました。作品を見てもらって大満足でした。

◎特別活動

・行事への参加（学校祭参観）



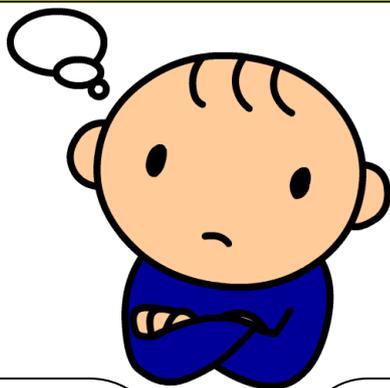
学習の展示やよさこいのパフォーマンスを参観しました。同年代の仲間のがんばりやエネルギーを吸収する、よい機会になりました。

・行事への参加（二中若・おなごりフェスティバル）



田楽を作ったり音頭上げを教えてもらったりして、大切な行事に参加できる喜びを仲間と一緒に味わいました。地域のお祭りに参加して、みんな成就感いっぱいでした。

6 子どもたちの素朴な疑問から



どうして、遊ぼうとすると逃げていくの？



遊びたいけど、恥ずかしい気持ちでいっぱいになるんだね。



自分から、近付いて来てくれるまで待ってられるかな。そうすれば、一緒に遊べるよ。



出前授業で、回答しました。(参考；P4表)

どうして、私たちみたいにしゃべれないんですか？



友達と話をすることが苦手な人は、特別支援学校にはいます。

話さなくても気持ちが通じることがあるよね。言葉を使わなくても、仲良くなれるかな。



出前授業で、体験、回答しました。
(参考；P4表)

なんで、特別支援学校にいったのかな？



ゆっくり学習に取り組んでいるんだね。そのために特別支援学校で学んでいるんだね。



出前授業で、回答しました。(参考；P4表)



みんなに見守られてアーチをくぐります



また会おうね！

7 交流を進めていくと、こんなことも

1回目の交流を終えて、
なかなか集団に入れないうA児の様子を見て、交流校の担任からこんなつぶやきが・・・

「保育園でA児を見たことはあったから知っているけど、どう理解して、どう接していいかわからない児童がたくさんいる・・・」



出前授業の中で「Aちゃん劇場」をしてみました。～せっかく誘っても、逃げていくAちゃん～



きっと恥ずかしいんだね。待ってればいいよ。

出前授業後の児童の感想から

「保育園にいた時にいじめていたけど、今度の交流の時は仲良くしたいです。」

実際の交流後の感想から



「Aちゃんと仲良くなれて、楽しかったです。」

<このエピソードから考えたこと>

障害のない児童が、障害のある児童との関わり方について悩んでいることを、交流校の先生から聞くことで、出前授業のねらいを考えることができ、交流校の障害理解につながりました。事前の話合いの大切さを実感しました。



2回目の交流（ダンス）で、B児が集団から離れて座り込むという場面が・・・。
交流校教員が対応しようと近付いたら、怒り出した。

支援学校教員がB児の状況と対応を説明して、離れて見守るようにした。
授業の終わりの感想発表時に、特別支援学校教員が、B児のことを説明した。

ダンスをとても楽しみにして練習してきました。
交流でみんなに会えることを、楽しみにしていたよ。



と伝えると・・・

交流校児童がB児に近付いて声を掛けると、自ら立ち上がった。
その場で音楽が流れ、B児を困むようにしてダンスが始まった。



<このエピソードから考えたこと>

B児と一緒に活動するという経験をしたことで気が付く、B児の行動の特徴。どうしたら仲良くできるかを障害のない児童と共に考え、話し合いという形で事後学習を行い、児童とともに考えながら、障害理解を進めていくことを心掛けています。

出前授業の中で、「びびび王国」（びびびという発声とジェスチャーで相手と関わる体験）をしたら・・・

児童の感想から



「びびび王国」で、伝わってよかったです。

スーパーで見かけても何も話さなかったけど今日の授業で分かったので、今度スーパーで会ったら勇気を出して話し掛けたいと思います。



<このエピソードから考えたこと>

障害の理解や受け入れ方は、一人一人違ってきます。出前授業でできることは、みんな同じ人間で仲間だということを基本にしなが、**「障害のある友達とどう付き合っていくか」ということを、交流校の児童も自分なりに考えるきっかけを作ることではないか**と思います。

交流を行った交流校の児童にアンケートをとったら、こんな意見がありました。



どうして、保育園の時は一緒に、1年生になったら別の学校に行ったのですか？



〇さんは、病気は治らないんですか？生まれたときからですか？



なんで、私たちみたいにしゃべらないのですか？



<このアンケートから考えたこと>



障害のある児童と出会い、一緒に遊び、学ぶ中で、障害のない児童が「自分たちと同じ仲間」として意識した時に、自分たちと違うことに気付き、どうしたら仲良くなれるのかを考えた結果、出てきた質問のように思います。

障害があることに気付くこと、それが障害理解の第一歩だと思います。そして、「違っていても友達」と違いを受け入れ、その上で、障害のある人もない人も同じ仲間として活動する。そんな集団へと進めていきたいと考えます。交流及び共同学習は、それを学ぶよい機会と捉えています。子どもたちの交流の様子や関わり方を見ながら、段階を踏んで少しずつ進めていきます。そして、効果のあるものにしていくためには、交流校とのより確かな連携が不可欠です。

目指すのは、障害のある人もない人も、地域で共に豊かに生活する姿です。